

松 沢 成 文

○松沢成文君 次世代の党の松沢でございます。

オリンピック関連の質疑も続いてきました。今までは、国立競技場という一つのオリンピックの競技場をいかにして造るかということで様々御議論があったわけですが、私は、今回はオリンピックの競技会場、オリンピック、様々な競技があります。それをどこでやるかって今一生懸命決めているんですね、いろんな話合いがあって。もう決まって、IOCもそれでいいですよと決まったところもあれば、まだ競技団体やあるいは東京都を含めてもめているところもあるんですね。一度決まったのに、やっぱりここやめてほかにしようかという動きも幾つも出ているんですね。

私は、この競技会場を決定するポリシー、どういう考え方や方針の下にどういう条件でこの競技会場というのを決めていっているのか、まずその基本的な考え方をお聞かせいただきたいと思います。

○国務大臣（下村博文君） オリンピック競技大会の競技会場につきましては、選手村からの距離などIOCが示す基準等を踏まえながら、世界のトップアスリートの最高の技術を引き出すことができる施設を備えた整備された施設であること、また、国際大会の開催実績などの観点から、国際競技連盟の同意を得て選定されるものであります。

二〇二〇年東京大会の競技会場につきましては、このプロセスを経て立候補ファイルに記載され、IOCの承認を受けたものであります。現在、アジェンダ二〇二〇を踏まえつつ、大会組織委員会におきまして、コスト面、大会後の利用等の観点から会場計画全体の再検討が行われているところであります。この会場計画の再検討につきましても、国内関係者及び各競技の国際競技連盟の了解を得た上でIOCの承認を受ける必要があるというふうに承知しております。

○松沢成文君 今大臣から幾つか条件というか考え方を伺いました。アジェンダ二〇二〇ですか、私もこれ読ませていただきましたが、まず第一に、アスリートが最高の状況でプレーできるような、パフォーマンスできるようなその施設が必要だろう、これは当たり前の話ですね。それから、東京オリンピックについてはコンパクトに行こうと。選手村から八キロ圏内ぐらいにできるだけ競技施設を集めて、そこでいろんな競技が行われて盛り上がりをつくれるだろうということです。

ね。それから、それと関連しますが、できるだけその中にある既存施設も使ってコストを掛けないでやっていこうということ、これも重要だと思います。最後にレガシーですよ。その施設が、今後みんながその施設に憧れて競技ができて、そのスポーツが発展していくような、そういう遺産となるようなものにしていこう。この四つぐらいがポイントなんじゃないかなというふうに私も考えているんです。

さあ、そこで、最近のニュースで自転車とかトライアスロン、セーリングなど十競技の会場は様々変更が検討されていて決定していないんですね。

そのアジェンダ二〇二〇で既存施設の活用がうたわれたこともあって、コスト削減を主眼に既存施設への変更が検討されるケースが増えました。例えば、バスケットボールは仮設の施設でやろうと思ったのを、さいたまアリーナがあるじゃないか、ちょっと遠いけれどもここ使えるじゃないかということになりまして、あるいはカヌーも、葛西臨海公園でまたちょっと施設を造るのにお金が掛かるだろうから隣接地へ変えました。それから、馬術も、江東区の方に仮設で公園を使って馬術やろうと思ったんですが、前のオリンピックで使った馬事公苑があるじゃないか、あそこでやりましょうということで、どんどんどんどん変更になっていったんです。

これ、既存施設を使えば、新たに施設を造る必要はない、仮設であってもね。だから、お金掛からないからこういうふうに変えていきましよう、IOCはここを結構言うんですね。やっぱりオリンピック誘致するのにコストが高くなっちゃうと、どこも手挙げなくなっちゃうと。だから、できるだけコストは掛けないオリンピックを実例としてつくりたいから、こんな方向でやってほしいということもあったんです。

ただ、このコスト削減というのは大切ですけれども、会場を既存の会場に変えるだけ、ちょっと遠くてもいいから、既存の会場があるから、さいたまアリーナ使おうということになりました。でも、それが本当のコスト削減になるのかなと。

例えば、その会場に行くために、遠ければ、そこに選手村を分村して、そちらで宿泊施設も造らなきゃいけなかったり、あるいはそのアクセスが悪ければアクセスを準備しなきゃいけなくなったり、様々そういう面で選手村から離れることによるコストというのも出てくるわけですよ。それから、先ほど言ったように、やっぱり八キロ以内でいろんな競技が見れるから、選手も行きやすいし、観客も回りやすい

という意味で盛り上がりがあるという一体感もあるでしょう。

こういったことで、コストだけを考えて競技会場をどんどんどんどん変更していくというのは、やっぱり私は、東京五輪成功に向けての様々なポリシーがあるわけです、コンパクト五輪とかレガシーの創出とか、そういうものがどんどんどんどん失われて、コスト至上主義になって会場が決まっていくというのは私はちょっと解せない、おかしいと思うんですが、大臣はいかがお考えでしょうか。

○国務大臣（下村博文君） 競技会場の見直しに当たりましては、大会組織委員会において、コストだけでなく、二〇二〇年大会の盛り上がり、それからその後のレガシーの創造等の観点からも検討が行われる、それは今御指摘のとおりだというふうに思います。

この競技会場の見直しは、いずれにしても、国際オリンピック委員会、IOC、それから国際競技連盟の意向が強く尊重される場所があります。現在、大会組織委員会において国内外の関係者との調整が行われているところであり、よりあるべき形でまとまる方向に今議論を進めているというふうに承知しております。

○松沢成文君 そこで、私はこの委員会でも二回ほど取り上げましたが、どうしてもこの会場設定で私は解せないのはやっぱりゴルフの会場なんです。これ、一応決まったという形にはなっているんですね。国際ゴルフ連盟もいいでしょうという形にはなっているんですが、私は東京オリンピックの理念、開催理念に真っ向から反しているのがこのゴルフ会場の設定だというふうに思っているんです。

まず第一に、今回の競技施設の中で唯一プライベート、公的な施設でないプライベートの競技会場を使うのはゴルフだけです。霞ヶ関カントリー倶楽部ですね。

実は、ブラジルのリオデジャネイロのオリンピックも同じ問題を抱えていたんです。リオ市内にゴルフ場が二つしかない。両方ともプライベートクラブだったんです。一度その一つに決めました、ここしかないからということで。でも、議論をした上で、やっぱり、これレガシーとして残すには、その後誰もがプレーできるパブリックコースじゃなきゃまずいんじゃないかという意見がわあっと上がってきて、それで何とリオ市は、パブリックゴルフコースを造って、そこでオリンピックをやるという決定をしたんです。大決断だと思いますね、私は。

やはり、プライベートのゴルフクラブというのは絶対にレガシーになりません。霞ヶ関ゴルフクラブ、名門クラブですが、その会員というのはVIPのお金持ちばかりです。一般の若い人たちが、自分

も石川遼や松山英樹みたくなりたい、ゴルフやりたいと思って、じゃ、そこでプレーしてゴルフの練習できるかといったら、絶対にできないんですね、会員に連れていってもらう以外には。まあ、トーナメントがあれば別ですよ。だから、リオデジャネイロは、プライベートのゴルフクラブに、わざと造って、わざとというか、造ってまで変更したんですね。

東京は、じゃ、プライベートはたくさんあるけれどもパブリックゴルフコースないのかといったら、すばらしいコースがあるんです、選手村のすぐ隣に。これが若洲ゴルフリンクスなんですよ。実は、ゴルフの専門家にも随分見てもらいましたが、霞ヶ関も、少し改良を加えないとオリンピックは難しいだろうということでこれから改良するという予定になっています。ただ、若洲でも改良すれば十分にオリンピックあるいは国際トーナメントができると、これゴルフの専門家が何人も太鼓判押しているんですね。

それから、いろんな条件で言いますけれども、本当にこれ考えなきゃいけないのは、埼玉県の内陸部、八月の月上旬、もう熊谷市なんて四十度超えていますよ。もう一年で一番暑い、日本の中で一番暑い地域なんですね。そこでゴルフやるのかという話です。選手は鍛えていますからいいですけども、私はギャラリーがばったばった倒れると思いますよ、熱中症で。いや本当、大臣、真夏の埼玉県のゴルフ場、内陸で、一度やってみてください。多分、大臣も倒れちゃう可能性ありますね。一方、若洲は、東京湾の真ん中で海風がばんばん吹くわけです。だから、風が強いから、またゴルフを難しくして面白くするんですね。いや、本当に気温は五度以上違うと言われますよ。

こういう気象条件なんて考えても、やはり私はアスリートにもギャラリーにも危険のないようにするのはこれ重要なことだと思いますし、あとアクセスです。東京から車で一時間半。恐らく、そっちに選手村や、あるいはメディアセンター、その宿泊施設も用意しなきゃいけないと思う。しかし、若洲は歩いて行けます。四キロですから、選手村から。車なら十分か十五分です。こんなアクセスもいいところにあるプライベートのコースがあるのに、なぜこれを使わないのか。

まず、大臣、オリンピックのレガシーとして残す、コンパクト五輪をやっていく、選手に最高の競技環境をつくる、アクセスも含めて、それを考えたら、どう見ても霞ヶ関でやるよりも、私は若洲でやる、まだこれ検討できるんですから、会場。私はこれしかないと思っていますけれども、大臣の考え方をもう一度確認したいと思います。

○国務大臣（下村博文君） これは、松沢委員から今まで国会でも再三このお話はいただいておりますので、私も森組織委員会の会長にお話をいたしました。森組織委員会の会長からは、このゴルフ場の見直しについては、今までどこからも誰からも実は言われたことはないということを言われておりました。ただ、私との話の中で、課題というのは、やっぱり霞ヶ関について、私は別の部分で地元の埼玉県の方から、交通アクセスが非常に不便なゴルフ場なので、果たして何万人という人が本当に定時に行って観戦したりすることができるのか、そういうアクセス問題が大きな課題だというふうに地元では話が出ているということは承知をしております。

それから、森会長との話の中では、確かにパブリックコースではなくてプライベートコースですから、果たしてどこまで組織委員会が今後要請、お願いしたことをプライベートコースである霞ヶ関ゴルフクラブが対応してくれるのかどうかは、まだ交渉していないのでちょっとよくまだ分からないところがあるということでは言われておりましたが、しかし、繰り返すようではすけれども、今現在、この場所が良くないと、ほかの場所、若洲まで含めて検討すべきだという声は組織委員会の会長のところには、実際ここで決めるわけではすけれども、上がっていないということであるそうであります。

○松沢成文君 霞ヶ関ゴルフクラブは、もう名門中の名門、日本のVIPの方が会員にずらっと並んでいます。政界、財界、文化人、経済人、並んでいます。恐らくそういう皆さんも、自分たちが入っているゴルフクラブがオリンピックでますますブランドを高めて有名になっていく、うれしいんだと思いますから、なかなか政治的にもこの問題、浮上してこないんですね、力の強い方が上にいますから。私はそんなふうに感じていますが。

ただ、問題は、じゃ、霞ヶ関でやる場合に、これ国の施設だったら国立競技場は国のお金で整備するんですよ。都の体育館とか都の公園を使う場合は東京都が整備するんですね。霞ヶ関は三月に一応内定しましたので、これからコースの改良工事に入ります。二つあるグリーンを一つにまとめる工事ですね。これは結構、芝を手入れしてちゃんとやるので、大変なコストが掛かるんですが。それから、距離を全体で三百メートル延ばすんです。これに十億以上掛かるだろうと。これはプライベートクラブですから、ここに公金をつぎ込むということは私はあってはならないと思っているんです。ほかは、みんな公的な施設でオリンピック競技をやるんです。ゴルフだけなんです、プライベ

一トの施設を使うのは。公的な施設は公金を投入しても、その後、都民や国民が使えるから公的な施設には投入は私は許されると思いますし、そうやらなきや準備できませんから。

ですから、ここで大臣に確認したいのは、ちょっとこれ霞が関の皆さんにも私はしっかりと聞いていただきたいのは、今後のコースの整備、恐らく十億以上掛かりますよ、これはあくまでも霞ケ関カンツリー倶楽部の負担でやるという方針でよろしいんですね。

例えばメディアセンターを造るとか仮設のスタンドを造るとか、これはオリンピックをやるために霞ケ関ゴルフ場を借りてやるので、これは組織委員会の負担だと思います。ただ、コース自体を、グリーンを造り替える、コース自体を大きくするというには私は公金は使ってはならないと考えますが、その方針でよろしいのでしょうか。

○国務大臣（下村博文君） 競技会場の具体的な整備方法につきましては、I O Cそれから国際競技連盟の意向を踏まえ、各整備主体において検討を進めるものというふうに承知をしております。具体的には、恒久部分は施設の管理・所有者、それから仮設部分は組織委員会において整備するとの基本的な考え方に従って、ゴルフ競技の会場につきましては、組織委員会において、霞ケ関カンツリー倶楽部及び国際競技連盟等の関係者と調整を行っているというふうに聞いております。

今後とも、競技会場の着実な整備に向けて、組織委員会等関係者の検討状況について見守っていきたいと思います。

○松沢成文君 今、恒久部分はその施設の所有者、つまりここであると霞ケ関カンツリー倶楽部ですね。だから、コースを改良するのは霞ケ関がやるわけです。仮設部分は組織委員会という仕分がきちっとできていると聞きましたので、仮に霞ケ関に、最終決定に今なっていますから、そこでいく場合は、その方針はしっかりと守っていただきたいというふうに思います。

それで、最後に伺いますが、オリンピック競技場のこの決定なんですけれども、最初はI O Cとの間でこの四月までには決まる、三月までだったかな、と言われていた。でも、なかなか難しい部分が各競技団体との交渉でもありますから、これが六月には決まると、I O Cとの最終決定だというふうに私は聞いていたんですけれども、これが先日の新聞報道では、六月のI O Cの理事会で会場計画の見直しの状況について報告をすると、これ森組織委員会会長が行って。ですから、どんどんどんこれ延びているわけですね。

だから、こちらの方も、先ほど国立競技場の建設が間に合うかとい

う話がありました。この競技会場の設定についてもずるずるずるずる延びていって、結論が出ていない。これは私はいかがなものかというので、今後のスケジュールがどうなっているかオリンピック担当大臣として把握されているか教えていただきたいということと。

あともう一点。これは、森会長はゴルフについては誰からも言われていないと言っていたといいますが、舛添知事は実はこれ問題意識を持っているんです。これはやっぱりパブリックがあるのならパブリックじゃなきゃまずいんじゃないかという問題意識がある。それから、先ほど大臣は都議会議員の内々の承諾なんという話が出ていましたが、実は、東京都議会の皆さんは、なぜパブリックの東京都所有の若洲があるのに埼玉県のパライベートコースでやらなきゃいけないのかと。都議会の方は、内々どころか、ほとんどが若洲支持なんですよ。

ですから、これも大臣、都議会の皆さんと都知事も、やっぱり東京都という都市が誘致しているオリンピックなんですから、最終的にもう一回しっかりと、本当に霞ヶ関でいいのか、若洲でできるじゃないか、パブリックでやった方がそれがレガシーになってゴルフの発展につながっていくんだという議論を是非とも都知事と都議会とやっていただきたいんです。いかがでしょうか。

○国務大臣（下村博文君） まず、競技会場につきましては、二月のIOC理事会におきまして十八競技が了承されるとともに、残りの十競技は六月のIOC理事会において報告することとなったと聞いております。組織委員会におきましては、六月のIOC理事会において報告し了承を得るべく、国内競技団体や国際競技連盟と調整を行っているものと承知しております。なお、一般論として、仮に六月のIOC理事会に間に合わなかった場合は次の七月末に行われるIOC理事会において報告し了承を得るものとなるというふうに聞いております。

それから、ゴルフの会場の件であります。直接このことについて私は舛添知事と話したことはまだありませんが、東京都の担当者を通じて事務レベルで確認したところ、舛添知事はゴルフ会場を見直すというような考えを持っていないと聞いていますというふうに報告を受けております。それから、都議会については、私が聞いた限りでは、特に若洲に変えるべきだと主張している方には私自身はどなたもまだお会いをしておりません。

○松沢成文君 時間ですので終わりますが、事務方からの報告じゃなくて、これはもう最後はリーダーシップを取るべき政治家が本当にこの方向でいいのかというのを最終決断を私しなきゃいけないと思うん

ですね。もう結論は出ているとおっしゃるかもしれませんが、私は今のままこのゴルフだけが民間施設を使って強行してやっていくということをやったらオリンピックのレガシーはつukれないと思っていました、是非とも政治家同士の最終的な腹を割った方向性を出していただきたいというふうにお願いをして、質問を終わります。

以上です。